2020 年通年テーマ（全６回）：

2016 年出版本人著作・自伝『SPÈRME』には何が書かれ、主張されているのか？　を探る

自著作の出版自伝

2016 年『SPÈRME』

2004 年
『Polnareff par Polnareff』

1974 年
『POLNAREFLEXION』

タイトル	POLNAREFLEXION	Polnareff par Polnareff	SPÈRME
作者	Michel Polnareff	Michel Polnareff	Michel Polnareff
共著	Jean-Michel Desjeunes	Phillippe Manoeuvre	-
発売日	1974年6月12日	2004年11月	2016年3月
出版社	Stock, Paris	Grasset, Paris	Plon, Paris
構成	生誕から1973年頃までの回想	生誕から1996『Live at Roxy』までの証と1997のよちやま話	生誕から2007年のツアー。そして家族とのことなどを展開

SPÈRME（2016）
序章（AVANT-PROPOS）
01 父の正反対であること（Etre tout le contraire de mon père）
02 私はいつも愛の恋人でした（J'ai toujours été un amoureux de l'Amour）
03 それは私にとって危険な仕事です（C' est un metier dangereux pour moi）
04 少年時代の悪夢への私の復讐（Ma revanche sur le poids de l' enfance）
05 だから、それはすべて単純なメロディーから始まります（Tout commence donc par une simple mèlodie）
06 私は異なる世界を見つけました。（J'ai dècouvert le monde d'un autre œil）
07 謙虚さは尻ではなく頭の中にある（La pudeur n'est pas dans le cul, mais dans la tête）
08 私は泥棒紳士でした（J'etais le gentlelnan cambriolè）
09 カリフォルニアで：私は復活しました！（En Californie: j' ai résurrectè!）
10 « みんなのように見えるように無理強いすることは深刻です »（«C' est grave de s' obliger à ressembler à tout le monde»）
11 « 指で話せないすべての言葉 »（«Tous les mots snas voix qu' on se dit avec les doigts»）
12 私が一度も残したことがないことを世間に示す（Montrer au public que je ne l'ai jamais quitté）
13 死を恐れない、そしてそれを信じない（Je n'ai pas peur de la mort, je n' y crois pas）

POLNAREFLEXION（1974）
卵の形をした最初の成芽（Premier bourgeon d'adulte en forme d'œuf）
第二の芽：私は男です（Deuxième bourgeon : Je suis un homme）
第三の芽：パフォーマンス（Troisième bourgeon : performance）
第四芽：ラブ・ミー・プリーズ・ラブミー（Quatrième bourgeon : Love me, please love me）
最初の花：バラ色の心（Première fleur : Ame câline）
2 番目の花：ピプレット（Deuxième fleur : Pipelette）
第三の花（Troisième fleu）
第四花（Quatrième fleu）
低木（Un arbuste）
小石の山（Quelques tas de cailloux）
丘：ノンノン人形（Une colline : La poupée qui fait non）
でこぼこ道（Un chemin cahoteux）
からの道（Une rue vide）
積乱雲（Un cumulo-nimbus）
鏡、ゴキブリ（Un miroir, un cafard）
すき、畑、シャレー（Une charrue, un champ, un chalet）
長く肥沃な平野（Une longue plaine fertile）
スタジアム（Un stade）
仮面（Un masque）
フォトアルバム（Un album de photos）
かご、カニ（Un panier, quelques crabs）
アンテナ、スクリーン、オーケストラ、怒り（Une antenne, un écran, un orchestre, une colère）
バスケットに入れるディスク（Un disque à jeter au panier）

Polnareff par Polnareff（2004）
序章
Ⅰ. 深く愛すればこそ厳しくしつけよ。それはきっと父の愛情の証（Qui aime bien châtie bien, mon père devait m'adorer）
Ⅱ. 丘の上のビートニク（そして……ではなく）（Beatnik sur la butte (et non pas...)）
Ⅲ. どの星の下に（Sous quelle étoile）
Ⅳ. 名声を捜せ！（Cherchez la Fame）
Ⅴ. マラケッシュ行急行（Marrakech Express）
Ⅵ. ポルナレフズ（« Polnareff's »）
Ⅶ. 我が心のジョルジア（Georgia on my mind）
Ⅷ. お尻のポスター（J'affiche mon cul）
Ⅸ. メイド・イン・ジャパン（Made in Japan）
Ⅹ. ペテン（L'arnaque）
Ⅺ. 押し掛け帰還とベルギーにて（Retour en force et en Belgique）
Ⅻ. フランスへの手紙（Lettre à France）
XIII. 「目」ロディー（Melod Yeux）
XIV. ガボンの虎、メキシコの羽根のある蛇（Des tigres au Gabon Un serpent à plumes au Mexique.）
XV. 匿名（Incognito）
XVI. ロイヤル・モンソーあるいはリビドド（Le Royal Monceau ou la Libidodo）
XVII. リンゴ酒の牛（Les Vaches à Cidre）
XVIII. ライヴ・アット・ザ・ロキシー（Live at the Roxy）
XIX. ストックホルム・シンドローム（Syndrome de Stockholm）
XX. おしまい、はじまり、あるいは「ニュアンス賞」（Finale, première ou: «Le Prix de la Nuance »）

1954 年にマルヌで生まれ。音楽評論家、ジャーナリスト、テレビおよびラジオ番組のホスト、漫画本の脚本家。彼は 1968 年に彼の最初のコンサートに参加：1977 年から 1984 年までは MétalHurlant、1993 年以降は Rock & Folk の編集長を務めました。彼はカルトプログラム Les Enfants du rock のクリエイターの一人。1995 年にロキシーホールで行われたポルナレフコンサートに出席するためにロサンゼルスに行きました。Rock & Folk チームでは、「Live at the Roxy」のミキシングにも参加し、歌手にインタビュー。雰囲気は心地よく、彼らは順調に進んでおり、Manæuvre はユーモアを持ち、彼の記事を完成させるためにパリから電話することで彼のプロ意識を証明しています。数年後、ポルナレフは彼に思い出を整理するのを手伝ってほしいと頼んだ。このコラボレーションの成果である Polnareff の Polnareff は、2004 年に Graset でリリースされました。しかし、Philippe Maneuver は、Annie Fargue が元の原稿に対して行った検閲に不満を抱いています。

© 2020 PO LNA HO A2Z Library of Michel Polnareff, POLNA+ and Ken Meguro All Right Reserved

この新しい本では、鮮明な啓示、重力、そしてたくさんのユーモアがあります。私たちは、彼がジャンクロードカミュに与えた愛情のこもったニックネーム『狂牛病』を学びます。
(from polnadico , Gilles Lhote)

序章
キーポイント
①自分のことを語る
②作品の作り方について
③現在の気持ち・立場

ラジオ・スコピエ出演、インタビュアー・ジャックシャンセル（48 分）
オーディオ 1970 年 1 月 16 日 27,840 再生回数 48 分 30 秒
Jacques CHANCEL は歌手 Michel POLNAREFF に語りかけます。彼はなぜ自分を中性的なキャラクターとして提示するのかを説明します。
彼は「大人のための人形」を作っていると考え、彼は自分の宇宙を作り、観客にそれを提供します。彼が英語で作曲する理由。ショーは誠実に行われなければならないチートです。
彼の子供時代と彼の家族、彼の音楽の始まりについての簡単な言葉。過去を否定するのではなく、マイクの前で過去について話すのは好きではありません。
彼の現在のショーを呼び起こします。
彼の子供時代の夢。コンサバトリーでの彼の通路。彼が愛する他の芸術。
ジャンルイパローとの出会い。
彼は自分がこの仕事を選んだのは才能があると思っているからです。しかし自信を失いながら、もっと良くなることを夢見ています。彼の音楽、特にクラシック音楽の趣味。彼の芸術的プロジェクト。彼がファンについてどう思うか。
政治、兵役、宗教に対する彼のビジョンに関する考察は、ミサを「完全な光景」と見なしています。その理想的なナイトクラブ。彼の愛、友情、幸福のビジョン。彼が薬物についてどう思うか。

１章
キーポイント
①父親のこと
②ダニエラ、ルカへの思い
③女性との出会いについて
④音楽との出会い
⑤子供（ルカ）を持つということの思い、そしてこれからのこと

セノー・バーナード
歌手はコンサートとツアーの間で圧倒され、自分に管理タスクを課す時間も欲求もありません。1972 年、彼を空手に変えた友人のジャンクロードアルバートは、彼をスターの偉大な崇拝者であるアンジェヴィンのバーナードセノーに紹介しました。最初の印象は良くありませんが、ミシェルは自分の友人と彼の側近に納得させ、彼は彼の銀行口座と彼の納税申告書の管理を任せます。1973 年、疲れ果てた国際ツアーの後にフランスに戻った彼は、自分が台無しにされ、アカウントがすべて空になり、セノーが税務署に申告書を送付できなかったことに気付きました。彼は彼が所有者であると思ったときに彼がテナントであることに気づきます ... 無税で、税務当局に悩まされて、彼は彼自身を再建するために米国に逃げました。何年も経った後、彼は有罪ではないが、払い戻さなければならない金額の責任を負っている。1970 年代の終わりに、彼はセノーがニューヨークの近くにレストランを経営していることを知りました。彼はあきらめる前に、詐欺師に復讐するために友人と一緒に道を歩きます。数年後、彼はこう言います。「人生でだまされたことはありません。私は愚かで、信頼できる人を非常にひどく選んだことで有罪だったかもしれません。私がノートブックを持っていたとき、それは私のアカウントを書くことではなく、音楽や歌を書くことでした。

ルカ誕生にまつわる話は、タブロイドや雑誌の方が興味深い報道が多い。

影響を受けた音楽についての記述は参考になる

メモ

おさえておきたい関連書

(1997 Oct)

(1973 Dec)

(2014 Sep)

(2016 Avr)

日本人のかつての教科書

日本での唯一の成書

(1974 Nov)

(2010 Aug)

© 2020 PO LNA HO A2Z Library of Michel Polnareff, POLNA+ and Ken Meguro All Right Reserved